

Title	友岡賛教授退任記念号発刊にあたって
Sub Title	
Author	牛島, 利明(Ushijima, Toshiaki)
Publisher	慶應義塾大学出版会
Publication year	2024
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.67, No.5 (2024. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	友岡賛教授退任記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-20241200--003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

友岡賛教授退任記念号発刊にあたって

友岡賛教授は2024年3月31日をもって定年を迎えられ、慶應義塾大学商学部を退任されました。商学会ではこれを記念して『三田商学研究』67巻5号を友岡賛教授退任記念号として刊行する運びとなりました。この機会に同教授のご略歴を紹介するとともに、商学部教員を代表してご挨拶を申し上げます。

友岡教授は、1982年に慶應義塾大学商学部を卒業後、同大学大学院商学研究科修士課程に進学されました。1984年4月には博士課程進学と同時に商学部助手に着任され、その後、1989年に助教、1996年に教授に就任し、通算40年間にわたり商学部の教員として義塾に多大な貢献をされました。また、2006年には『会計プロフェッションの発展』により、本塾大学より博士（商学）の学位を授与されています。

友岡教授は、会計学（財務会計論、会計史）分野の研究に長年従事し、会計の本質的機能を考えることを研究テーマとされています。『三田商学研究』にも膨大な数の論考を発表されているほか、これまでに『近代会計制度の成立』（有斐閣）、『日本会計史』（慶應義塾大学出版会）、『会計学の考え方』（泉文堂）を始めとする19冊の単著を含む28冊の著書等を刊行され、『近代会計制度の成立』で会計史学会賞、義塾賞を受賞されるなど、数多くの優れた研究成果を公刊されています。

教育の面では、「財務会計各論（会計基礎理論）」、「会計史」等の授業を担当されたほか、研究会や大学院での指導を通して、多くの優れた人材を送り出してこられたことは言うまでもありません。その一方で、商学部長補佐（1996～97年）、日本語・日本文化教育センター所長（2005～17年）、国際センター所長（2010～17年）、商学会委員長（2015～23年）、会計研究室長（2017～24年）、慶應義塾評議員（2018年、2019～20年、2022～24年）などの要職を歴任され、商学部および義塾全体の発展に尽力されました。さらに塾外においても、独立行政法人日本学生支援機構や文部科学省高等教育局で留学生の受け入れ促進や海外留学支援制度の充実に尽力されるなど、多くの役職を歴任されています。

友岡教授とは学部の委員会や研究会等でご一緒する機会もたびたびありましたが、その鋭い分析力や議論の本質をつかむ卓越した力には常に驚かされてきました。議論が行き詰まって停滞した雰囲気のある会議において、友岡教授の発言をきっかけにして議論の焦点が定まっていくという場面に何度も立ち会ったことがあります。

どのようなテーマについても、常識や慣習に囚われず問題の原点まで立ち戻って考え抜こうと

する姿勢、本質を掘り下げる議論を楽しむ姿勢が友岡教授の本領であり、そのことが研究教育はもちろん、大学・学部運営においても存在感を発揮し、多大な貢献を残されたことにつながっていると感じます。ご自身がどこまで意識されているかはわかりませんが、友岡教授は義塾の幼稚舎出身でもありますので、独立自尊の精神を重んじる環境で育んできた力を、研究者、教育者として後進につないでいくという役割を果たされてきたのではないのでしょうか。

定年制度のためとはいえ、友岡教授が今年の3月末をもって商学部を退任されたのは、私どもにとって大変残念なことです。今後も名誉教授として、研究および教育の場で、私たち後進にこれまでと変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。友岡教授の今後のますますのご活躍を心より祈念いたしまして、本記念号の刊行のご挨拶とさせていただきます。

2024年8月

商学部長 牛 島 利 明